

令和7年度 第2回 大阪府立平野支援学校 学校運営協議会 議事録

大阪府立平野支援学校
校長 山崎 彩

日 時	令和7年11月28日（金） 10:00～12:00
場 所	大阪府立平野支援学校 小会議室
参加者	陸奥田 維彦（委員） 岩元 康（委員） 市場 達朗（委員） 谷藤 誠宏（委員） 中野 淳子（委員） 増田 恵（委員） 山崎 彩（校長） 長谷川 真哉（教頭） 橋本 伸彦（教頭） 加藤 孝（事務長） 井本 勇氣（首席） 橋本 万以子（首席） 玉井 実加（指導教諭） 阪本 祥子（小学部主事） 飯塚 恵子（中学部主事） 服部 麻衣子（高等部主事）
次第	(1) 授業見学 中学部「音楽」 (2) 中学部の指導体制 (3) 学校経営の進捗状況 ①リスク管理 (4) 令和7年度学校教育自己診断 回答の集計結果 (5) 令和8年度 使用教科用図書採択 (6) 協議
意見等の概要	<p>(1) 授業見学について 生徒がキラキラとした様子で授業を受けていた。楽器や教材に手を伸ばすなどよく参加していた。各自の障がいの程度、発達段階を越えて一つの集団としてまとまっていた。改めて「音楽」の力、可能性を感じた。お互いの顔が見える生徒の座り方も良かった。生徒の気づきを促せる主担者の言葉かけも良く、指導者間のチームワークが取れていたと評価された。性犯罪防止の観点から、様々な場面で同性介助の必要性が取り上げられている。今後、指導と介助の場面設定をさらに明確に区別することが求められるのではないかと危惧する声をいただいた。</p> <p>(2) 中学部の指導体制について 積極的なICT機器の活用については、児童生徒がタブレット型端末の操作に慣れているので効果的であると思う。一方で、引き続き集団生活や集団との関わり方、友だち関係の構築にも力を入れていってほしいとのご意見をいただいた。</p> <p>(3) 学校経営の進捗状況について ①リスク管理について 「ヒヤリ・ハット報告書」は組織全体としてできる限り多くの報告を集約することが重要である。報告書を提出することは良いことであり、決して反省文やペナルティ、ネガティブなものにならないようにすることが大事である。ヒヤリハット事象を報告書として集約したあとは、「何をしたらそうなったのか（理由）」を振り返り、「今後はどうすればよいのか（改善）」を学校組織全体で考え、取り組んでいくことがより効果的であると助言を受けた。</p> <p>(4) 令和7年度学校教育自己診断 回答の集計結果について 児童生徒、保護者の回答率が大幅に上昇し、教職員の回答率が100%となったことは素晴らしく、担当者をはじめ学校としての工夫が効果的であったと評価された。 回答を紙媒体で求めるのか、Google フォームを活用したWeb形式にするのかは保護者の得意不得意による部分もあるので、今後も複数の回答形式を検討するなどの工夫が必要である。Web形式の場合には、お知らせ文書のレイアウトを工夫するとより答えやすい場合もあると助言を受けた。 自己診断の結果から課題が見つかった際に、すぐにアイデアを出し合い、学校組織として改善策を実行している様子が見えたと評価を受けた。</p> <p>(5) 令和8年度 使用教科用図書採択について 検定教科書や文科省著作教科書の他にも一般図書としていわゆる「絵本」を教科書として採択しているが、はたして絵本はシラバスに沿った授業を行っていくための教科書になりえるのか、日々の授業の中で使用しているその他の教材との関係性を踏まえ、改めて問い直す必要があるのではないかと指摘を受けた。</p>
備 考	<p>・傍聴者 なし</p> <p>・第3回開催予定 令和8年2月17日（火） 10:00～12:00</p>